



令和3年2月15日 雨上がりの虹 本館屋上撮影



No.42 (令和3年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組む障害児者と
その家族を支援します

コロナ禍の
ご支援に感謝

社会福祉法人鶴風会
理事長 松尾 賢二

平素より鶴風会の事業に御心を頂いてお
りますことに、新年度にあたり心より御礼
申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界
的な流行により、我が国でも第二波そして
第三波と猛威を振るい、さらに変異ウイル
スも出現し予想の出来ない事態により翻
弄された一年となりました。当法人におき
ましても昨年の非常事態宣言が発せられた
後、4～5月期は約一億の減収となり大変
苦しいスタートとなりました。幸い9月頃
よりPCR検査機器の導入や厳重な管理の
徹底と職員の頑張りにより、今のところ病

院内にコロナ感染症を発生させることなく、
業績を少しずつ回復することが出来ました。
残念ながら例年開催しているバザー、みど
り祭り、オルフェの会などのすべての行事
は中止を余儀なくされ、頼みの綱である皆
様方からのご寄附も絶望的と思っております。
心苦しいと思いつながら、各会中止の
お知らせと共にご寄附の依頼状を同封いた
しましたところ、例年以上の寄附を賜りま
した。皆様におかれましてもコロナ感染症
による経済的影響を受けているにもかかわ
らず、例年同様のご寄附を頂戴致しまし
たことをご報告申し上げますと共に心より深
く感謝いたします。

このような状況下ですので、今年度のお
いては、少しでも赤字縮小を目指してより
一層の経費の削減を模索致しております。

最近では平日夜間と日曜祭日の温水便座
の電源を切るなど、きめ細かく経費の節約

- 1頁 コロナ禍のご支援に感謝
- 2頁 わが国の新たな難病対策について
- 3頁 私と看護課長さんの秘密
- 4頁 新型コロナウイルス感染症拡大のなかで2
- 5頁 西多摩だより
- 6頁 2020年度
東京小児療育病院 行事報告
新型コロナウイルス感染症対策も
工夫して行事を開催しました
- 7頁 ご寄附者名簿
- 8頁 ご寄贈品

を心がけております。

そのよつな中で面白い話題もありました。長年にわたり当法人の常務理事を努めておられました長岡常雄先生（現在 土佐希望の家医療福祉センター）が昨年の叙勲で瑞宝小綬章を受賞されました。

長岡先生は平成16年8月に当法人の施設長、常務理事に就任され、令和元年6月に退任されるまで14年10ヶ月にわたり当法人に多大なご尽力を頂いておりました。温厚な人柄で、保健、医療、福祉は、人が人として生活してゆく上で最も基本的なことと捉えられ、強い信念を持って行動しておられました。瑞宝小綬章の叙勲に際して、改めてましてメタモルフオーゼした世の中に対応した福祉の考え方など寄稿して頂きましたのでご紹介申し上げます。

鶴風会はウィズコロナ時代への適応をはかり、後に続く世界へ備え、様々な新しい変化に対応しながら皆様と共に歩みたいと考えておりますのでこれからもよろしくお願い申し上げます。



わが国の新たな

難病対策について

社会福祉法人鶴風会後援会

会長 青木 継稔

厚生省は、2015年から新たな難病対策を始めることになりました。

◆難病とは何か

わが国で「難病」という言葉が使われたしたのは、昭和40年代にスモンS MONと言う病気が契機とされます。スモン病は視神経と脊髄に炎症を合併し、我が国のみに見られ昭和42・43年頃に多発しました。昭和44年厚生省は調査研究班を組織し、スモンと整腸剤キノホルムの因果関係が初めて示唆されました。キノホルム発売を停止したところ、スモン患者が激減したのです。

厚生省は、キノホルムという「薬」を承認したのは国であり、この難病を救済しなければならぬこと、また、難病といわれる病気が集中的・多角的に研究すればその原因が究明され得ることを学んだのです。

昭和47年、国会にて難病対策要項が策定されたのです。要綱は、難病とは、(1)原因不明、治療方針未確定であり、

かつ後遺症を残す恐れが少なくない疾病、(2)経過が慢性にわたり、単に経済的問題のみならず、介護等に人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾病と定義されました。

◆難病に対する対策の進め方

(1)調査研究の推進、(2)医療施設の整備、(3)医療費自己負担の解消の3つが挙げられ、難病の病因・病態の解明、診療整備、医療費公費負担を目指すことになりました。当初は、スモン、ペーチエット病、重症筋無力症、全身性リテマトーデス、サルコイドーシス、再生不良性貧血、多発性硬化症、難治性肝炎が対象とされ、前記4疾患が医療費助成対象となりスタートしました。

◆稀用薬（オーファンドラッグ）の開発

難病治療薬の開発研究は、(1)対象となる患者さんが少なく開発しても利益が低いこと、(2)病因不明なため治療薬開発が難しいこと、等の理由から製薬会社から敬遠されていたのが、国が総合的な難病対策実施により稀少難病の治療法開発にも光明がもたらせました。

◆難病対策の推移

その後難病研究対象は、数百に増加

したので、国は医療費助成の対象疾患を56疾患に限り、特定疾患治療研究事業（医療費助成）としました。それでも平成23年度末には約78万人と対象患者数が増加し、経費が急速に増大しました。医療費助成の対象疾患の拡大と限りある国の財源に見直しの必要性に迫られることになりました。

◆「難病患者に対する医療費等に関する法律」の成立と施行

平成26年5月に「難病患者に対する医療等に関する法律」が成立（平成27年1月施行）しました。医療費助成等に、消費税等の財源が充当されることとなり、各都道府県・政令都市と国が半分づつ負担することが決まりました。国は難病発症機構・診断及び治療に関する調査・研究を継続的・安定的に推進・実施することが可能になりました。

◆指定難病とは

医療費助成対象疾患は、新たに「指定難病」と呼ぶことになり、(1)発病機構が明らかでなく、(2)治療方法が確立していない、(3)稀少な疾患、(4)長期の療養を必要とする、の4つの条件の他に、(5)患者数が本邦において一定の人数（人口の約0.1%程度）に達しないこと、(6)客観的な診断基準（またはそ

れに準ずるもの)が成立していること、の2条件が加わりました。まず、第一次実施分は、110疾患(平成27年1月1日)、第二次実施分196疾患(同年5月13日)が追加され、合計306疾患が医療助成の対象となりました。平成27年度末に約94万人に達し、医療費助成は、約2,221億円となりました。その後、追加され、現在331疾病が認定されています。

◆難病の診療体制

難病法規定により難病指定医のみが診療を行うことが可能です。難病指定医の役割は、(1)難病医療費助成の支給認定申請の必要な診断書を作成すること、(2)患者データ(診断書の内容)を登録管理システムに登録すること、の2点です。要件は、(1)難病の診断または治療に5年以上従事した経験があり、申請時点に関係学会の専門医の資格を有していること、(2)難病の診断または治療に5年以上従事した経験があり、一定の研修(1〜2日間)を修了していることが必要とされ、5年毎の更新が必要です。

「指定難病」331疾病名については、パソコンかスマホ検索すれば一覧できます。「指定難病」の医療助成を受け

るには審査が必要です。以上、わが国の新たな難病対策について解説しました。

私と看護課長さんの秘密

土佐希望の家 長岡 常雄

医学生の間(昭和40年) 島田療育園にボランティアとして重症心身障害児に関わり合いを持たせていただいたから、もうかれこれ55年になります。この間重症心身障害児・者自身も、それを取り巻く社会情勢も大きく変わってきたと思います。また一方変わらないこともたくさんあります。

私は昭和46年に東京都に入職して平成16年7月に退職するまで33年間余り都の衛生行政に携わりました。その後、平成16年8月から鶴風会にお世話になり令和元年6月まで理事を務めさせていただきました。この間松尾理事長先生をはじめ多くの方々からご教授を受けたことに改めてお礼を申し上げます。

さて東京都在職中、重症心身障害児施策を担当したのは昭和61年より3年間の母子衛生課長時代でした。今から

35年も前になりますがその頃の重症児を巡る時代の風景について述べてみたいと思います。この時期は東京小児療育病院では院長の鈴木先生が重心の通所事業を日本で初めて開始された時期でもありますが、通所事業については他で触れたことがありますので今回は「東大和療育センターの隣に北多摩看護専門学校がなぜあるのか」というお話をしたいと思います。

当時東京には5つの民間施設と2つの都立施設がありました。入所待機者は他県と比べても圧倒的に多く、早急に入所施設の建設が求められていました。しかしながら都内での土地確保は難しく建設計画は遅々として進んでいませんでした。東大和基地跡地に都立の重心の施設を建設しようという計画は昭和48年から検討を開始していましたが、国から東京都への土地の払い下げが進まず頓挫していました。払い下げが進まない理由はいくつもありましたが、その一つに新しい施設の基本的考え方が、当時の国や払い下げを許可する審議会の理解を得ることが難しかったことです。都の計画では交通至便な駅近くの4万平米の敷地に平屋建てで入所定員120人の重心施設を建てる

というものでした。国からは、高層住宅が建て並ぶ交通至便(駅から270m)の4万平米の広大な土地に高々120人の施設をそれも平屋で建てるというのが審議会を通すのは困難でしょうねという感触が伝えられました。私達は、新しい施設が、今までの入所中心の施設ではなく在宅支援を中心とした施設で、そのためには在宅の方が、利用しやすいように交通の便が良いことが必要で、また病床も28床は在宅支援のためのショートステイに利用し、また障害の重い人を優先的に入所していたために、災害時の避難が容易な平屋建てが必要なのだと説明させていただきました。説明は聞いていただきましたが納得されたかは別です。

それが急転直下払い下げに向けて歯車が動き出したのはひょんなことからでした。当時母子衛生課の隣は看護課でした。ある時看護課長さんが「土地がない!土地がない!」とつぶやいていました。話を聞いてみると東京都の看護師不足は深刻で、都議会からも都立の看護学校の増設を強く求められており、衛生局としても優先度の高い施策でした。その時ふと「あの土地を、重心施設と看護学校の併設という

ことで払い下げを受けられないだろうか?」この考えが浮かびました。この話を看護課長さんにお話すると大変喜んで、局の幹部を説得してあつというまに局の併設案が出来ました。その後、国の審議会も無事通り土地の払い下げを受け、平成2年には建設工事が始まり、平成4年8月に都立で3番目の東大和療育センターが開設されました。あのまま平屋の単独施設で押し通したらうまく審議会を乗り切れたか疑問でした。当時社会問題にもなっていた「看護師不足」の方が、審議会を通るには分かりやすかったのかもしれない。

入所中心から在宅支援に大きく変化しつつある時期でしたが、社会がまたそれを認め社会全体が動き出すのはもう少し時間が必要としたのだろうとおもいます。

現在、併設した北多摩看護専門学校
の学生さんが、東大和療育センターで看護実習を行い、また療育センターに就職する方もおられるようです。

東大和療育センターの隣になぜ北多摩看護専門学校があるのか、それは私と看護課長さんの二人だけの秘密です。

新型コロナウイルス

感染拡大のなかで2

東京小児療育病院

院長 椎木 俊秀

新型コロナウイルス感染は拡大を続け、1月には2回目の緊急事態宣言が発令されました。感染拡大防止のための最大の課題は医療崩壊の防止と無症状感染者対策だと思えます。そのためには少なくとも医療機関へのさらなる財政支援は不可欠です。国の責任で工ピセンター化している地域や医療、福祉、障害、教育、保育分野を中心に積極的にPCR検査を中心とした検査を行い、無症状感染者を早期に発見し、保護・隔離する必要があります。接触者を追うためには現在の保健所職員だけでは足りないのです、トレーサーを大量に養成したり、軽症の方を保護・隔離するためのホテル等の確保も重要です。さらに飲食店等への補償を伴った自粛要請など、政治や行政にしかできないことをきちんとやるべきです。こういったことは世界の状況を見ていれば、もっと早期に取り組めたはずですが、それを怠ったため第3波に突入してし

まいました。特に無症状感染者対策の戦略が見えて来ません。

私は当初より次のような方針、戦略で取り組むべきと考えていました。

【基本方針】

- ・利用者、職員の安全と事業の継続を最優先する
- ・事実、科学、論理に基づき、危機管理の基本を遵守する

【基本戦略】

- ・最悪の事態（院内クラスター）を想定し、それを未然に防ぐ対策を実施する
- ・最悪の事態に至る兆候を早急に察知し、迅速に対応する
- ・費用対効果ではなく、最悪の事態を防ぐ何重もの対策を実施する
- ・上記対策のために自施設でできるPCR検査装置を導入し、その積極的活用を図る

手洗い、マスク、換気、3密回避などの感染対策や個人防護員の準備は当然ですが、当院の特徴はPCR検査を重視した点です。PCR検査は偽陰性が約30%ということですが、診断が主目的ではなく、ウイルスの排出量を知る、つまり防疫的な観点からすれば、陰性ということはほぼウイルス排出は

なく、その時点で他者への感染リスクは非常に低いということです。その意味ではPCR検査は非常に有効です。その後も陽性化する可能性を考えると策を徹底しておけば問題はありませんが、必要なら再度検査をすればよいのです。

当院のような施設でもPCR検査ができることが分かったので、昨年6月からPCR検査ができる体制を整え、9月には簡易PCR装置も複数台導入し、外来までは拡げられませんが、発熱等症状のある入所者、短期入所前・治療入院前の全員、有症状あるいは濃厚接触が疑われる職員・家族等に積極的に検査を行って来ました。無症状の患者であっても、医師が必要と判断した場合のPCR検査は保険で算定できるという令和2年5月15日の厚労省通達を有効に活用し、有症状者のみでなく必ず無症状感染者がいることを意識しながら感染対策を進めています。今は過剰な検査は良い、漏らさないことが重要ということ。令和3年2月15日までに50件以上の検査を行いました。疑いのある人はすぐに検査ができ、約1時間で結果が分るので、随分楽になりました。これだけ検査をやっても陽性が出ない

ということとは、少なくともクラスターにはなっていないことの証明になるし、感染対策の有効性の検証にもなります。「攻めの感染対策」を行うためにはPCR検査等の検査の積極活用は必須です。

既に市中感染の状況を呈しているので、施設内に無症状の感染者が何人かはいると思って対応すべきだと思います。よって万一、施設入所者あるいは職員に1人でもコロナ感染者が出たら、一気にすべての入所者・通所者・職員（非常勤、委託も含む）を対象にPCR検査を行う方針を12月に決めました。

検査人数は約600人位になると思いますが、それを院内、院外検査を併用し2日間でやりきる準備（全員の名簿、カルテ、鼻咽頭・唾液検体、検査体制等）を整えました。カルテの記載等は大変ですが、保健所の対応を待っていたら何日もかかるし、全員の検査は難しいでしょうから、保健所の負担軽減のためにも保険でやると決めました。今やつと本格的に社会的検査を進めようという動きが始めましたが、今後は社会的検査と保険診療をうまく組み合わせて行ければと考えています。

有効性、迅速性、職員の英知の結集

（自由闊達な議論を行った上での決定権者の判断）を重視し、早期発見・早期対応に取り組んでいます。職員、利用者・家族の方に対する感染対策の啓発活動にも努めて来ました。正確な知識を持ち、理解・納得の上にそれぞれが自覚的・自発的に感染対策を行っていただくことを重視しています。危機的な状況下においては、個人的にも組織的にもその本質が露になるものです。利用者・家族の方は非常に協力的です。職員も自覚と気概を持って冷静、合理的に取り組んでくれています。

間もなく日本においてもワクチン接種が始まりそうです。かなりの人が接種を行ってみないと実際の効果や副作用の程度は不明ですが、うまく行くことを願っています。人類は何回もウイルスのパンデミックに立ち向かい克服して来ています。今回は歴史上初めて世界が一致団結して難局に取り組もうとする動きが強まっています。感染が終息した暁に、パンデミックが暴いた社会の問題点に多くの人が気づき、解決のための行動をとり始めるなら、不安や困難はありますが、明るい未来の創造の可能性が芽生え始めると思えます。そのような希望も持ちながら、目

の前の課題解決に向けて引き続き奮闘して参ります。

西多摩だより

西多摩療育支援センター

センター長 鶴岡 広

2月13日深夜、福島県沖で地震があり目が覚めた。思わず、10年前の東日本大震災がフラッシュバック。

2011年3月11日金曜日昼、地震発生。東京の西外れにある当センターでも揺れを感じ、エレベーターが緊急停止となった。以前より土日、福島郡山市にある病院の手伝いをする約束をしていたので、診療後に郡山に向かった。首都圏より東北の高速道路は全て通行止め、国道16号は帰宅渋滞で通行は無し。裏道を使って4号線に出た。利根川を渡り、埼玉県を越える頃より、街は全て停電。4号線の非常街頭は点灯していたが、信号機も全て停電していた。宇都宮を越え那須にかかる頃より雪が積もり始めた。白川当たりまでは、特に道路に亀裂は無かったが、ここを越えると道路に亀裂、陥没多数が多数。4号線もついに通行止めとなっていた。

地元の車の後追いと、ナビを頼りに、道路破損による通行止めを回避し、普段は、4時間程度で着く目的地だったが、10時間以上費やし翌朝に目的地の病院に到着。病院内は、市内の病院が倒壊したため、ベットごと患者を受け入れていて病室・ホールまで、ベットでいっぱい。そして、近隣住民も避難していたため、廊下なども人であふれかえっていた。病院は自家発電にて稼働、水は貯水槽にある分なので、補給が来るまで節電、節水。外は雪が降っていたが、暖房も動いていたのもあるが、むしろ、人が多いので、熱気で寒くはなかった。入院患者は普段よりむしろ穏やか、淡々と頼まれていた医師としての病院の日勤・当直業務を行っていたのだが、後日、病院より大変感謝され恐縮したのを覚えている。

災害は、恐ろしい。昔から怖いものは、「地震、カミナリ、火事、おやじ」。今は、「地震、津波に火事、コロナ」と言つとところであるつか。大きな禍には、ただ自分のできることを淡々と行い、禍に戸惑う人に寄り添つことしかできないのかもしれない。

2020年度 東京小児療育病院 行事報告

看護・生活支援部
生活支援担当科長 渡辺 明彦

今年度の行事について、例年実施している行事内容は、新型コロナウイルス感染症防止のため実施方法に大きな制限を設けることが、余儀なくされました。内容の再検討を行い、「できない」ではなく「どうすればできるか」という発想で、利用者の方の生活の質を確保しながら、健康管理を第一に考えて実施することになりました。

4月～6月は緊急事態宣言中のため、行事や外出は中止せざるを得ませんでした。例年ですと父母会主催の「お花見」が予定されていましたが、保護者の方の面会もできる状況ではなく、今年度は残念ながら、外には出ずに病棟から見える桜の花を眺めました。

7月以降は、少しずつ活動を増やし実施することができました。外出企画は参加人数を限定し、買い物等はせずにバスにてドライブを楽しみました。帰ってきてからは活動室「わくわくルーム」にて、スヌーズレンやDVD

鑑賞などそれぞれが好きなことを楽しみました。

しかし、夏場の風物詩となる「花火大会」と10月に予定されていた施設の一大イベント「みどりまつり」「チャリティーバザー」は、開催することができませんでした。その代わりに病棟ごとに企画を検討し、「ハロウィーンイベント」や「運動会」などを行い皆で楽しむことができました。

12月はクリスマス会、1月は新年を祝う会、成人を祝う会など感染対策を実施しながら例年通り季節を感じる行事を実施することができました。

行事以外の活動でも今までと違った形で実施しています。昨年度から、行われている「陽だまり」活動は、病棟間の利用者が交差しないように、1回の参加条件や、時間を制限し行うようにしています。少ない人数ですが、利用者どゆっくりと関わる事ができる唯一の時間となっています。また、音楽活動の「みどりキャラバン」を12月に2つの病棟で行うことができましたが、その他の病棟・通所については、社会的な感染拡大（緊急事態宣言）を考慮し延期にせざるを得ませんでした。どの行事もご家族の方の参加をご遠

慮していただき、病棟内においても部屋単位で行い、三密を避け、ソーシャルディスタンスを保つことを意識しながら取り組みました。日常的に自由に外出することが、まだまだ難しい状況ですが、早くその日が来ることを願っています。そして、利用者の方が季節を肌で感じ、気分転換がはかれ、利用者・職員ともに楽しむことができ、ご家族の方々や、ボランティアの方も一緒に参加することができるような行事・活動を、次年度も引き続き提供していきたいと思えます。



新型コロナウイルス 感染症対策も工夫して 行事を開催しました

西多摩療育支援センター
生活支援部長 柳瀬 達夫

西多摩療育支援センターからは、例年「センター祭」の報告をさせていたことが多かったのですが、令和2年度に関しては違います。昨年6月に予定していた西多摩療育支援センター

「センター祭」は、直前に国から発せられた緊急事態宣言の影響もあり、開催を断念しなければなりません。センターでも過去には東日本大震災直後に開催を断念した経緯はありますが、地域の皆さまと利用者の方々、そして職員との交流イベントとしての位置づけでもある行事です。とても残念ではありますが。

新型コロナウイルス感染症対策のために、普段の生活も外部の方があまり入らないように工夫したり、入所利用者の面会を制限したりとなかなか難しい舵取りを進めなければなりません。行事についても例えばセンター内の身体障害者入所施設では、「納涼祭」や「忘年会」は実施しましたが、家族やボランティアの受け入れは遠慮してもらった状況でした。しかしながら、ソーシャルディスタンスを心掛け、会場を分けて今はいやりのリモートで会場をつなぐなどの工夫をして、普段食べられないお食事を召し上げしてもらいました。忘年会では、年間の活動の成果を動画で見たり、ビンゴ大会で景品を当てたりと、この状況のなかでも皆さんが楽しめるように職員が企画と工夫をさせていただきました。

一方、重症心身障害児者の通所施設に關しては、大きなイベントとして「サマーフェスタ」や「もえぎ体育祭」などを開催しました。やはりご家族は呼ばせんでしたが、例年にも増して盛大におこないました。「サマーフェスタ」は8月上旬に3日間に分けて開催しました。今年のテーマは、なかなか外出のままならない状況をふまえて、利用者とともに多数決で「ユニバーサルスタジオもえぎ（ジャパン）」に決定しました。ユニバーサルスタジオのキャラクターに合わせた企画を3日間日替わり行います。1日目は「ミニオンズ」をベースにしたフォトフレーム作り。2日目は「スパイダーマン」にみたてて巨大なクモの巣が張られた的めがけてクモを飛ばしのゲームそして最終日は「ハリーポッター」です。「ハリーポッターの魔法教室」と題して、3人の魔法の先生が登場し、ハリーポッター特製手作り木製ポーションで魔法の杖を樽に飛ばし入れる魔法教室を開催しました。そして閉会式ではミニオンズ、スパイダーマン、スーパーマンとともにみんなで記念の写真を撮りました。

春になつて感染の状況が好転してほ

しいと思うばかりですが、皆さんの健康を第一に考えながら、生活にメリハリをもたせる行事を今後も企画していきます。



社会福祉法人鶴風会へ
ご寄附者ご芳名
令和2年7月～令和3年2月
499名（五十音順・敬称略）

- 有村 章・朝日恵美子・足立 嘉子
- 足高 毅・浅田 栄・浅川 和子
- 赤沢 麻美・青木 継稔・青木万智子
- 青木 美澄・青木 徹・青木 千津
- 青木 悦・青木りう子・青山 幸生
- 新井 恒子・荒木眞佐子・荒井 陽子
- 安部 良治・安藤 博文・安達 久夫
- 安土 達夫・安斎 忠治・阿部美代子
- 阿部 正和・赤星 恵子・滑原 博
- 苗村 みえ・飯島 毅彦・飯田美保子
- 飯塚 卓・飯塚 健雄・飯村 誠
- 飯田洋一郎・飯田 弥生・飯田紀一郎
- 白石 祐子・石北 壽子・石田 哲朗
- 石塚 博子・石川稚佳子・石川 至
- 石原 学・今井 晃・五田市緒里枝
- 五日市 敬・岩淵 聡・岩本 敦子
- 岩田 敏男・稲松 信雄・稲垣 登稔

- 逸見 仁道・一林 繁・井村 和博
- 井上 和子・井上美知子・井上 瑞穂
- 井上 昌光・井上 英治・伊豆蔵英明
- 伊藤 茂理・伊藤 文子・伊藤 正俊
- 伊藤 圭子・伊藤 駿・伊藤 治男
- 諫山 京・梅田 正法・梅田 嘉子
- 梅田みほ子・畝本 恭子・内山 利満
- 植田 桂子・上田 建・瓜田 純久
- 宇野 拓・宇野久仁子・宇佐見三代
- 枝松 秀雄・江川 惠基・江元 智子
- 海老根伊佐子・落合 泰明・大島 剛
- 大島 範子・大塚 周二・大塚 淳子
- 大竹 喬二・大村 一夫・大場 幸延
- 大高 究・大江 容子・大関 忍
- 太田美つ子・小澤 翠・小野 嘉之
- 小俣 美子・小畑 恵子・小川 正俊
- 小川 昭子・小原 明・小原 桂子
- 小原 該一・及川千代子・冲野 佳子
- 奥井雄一郎・岡田 倫明・岡田 征彦
- 荻原 泰・片桐 有一・蛭田 啓之
- 川崎 教子・川島 福恵・川村 貞夫
- 神山 悠子・上園瑠美子・勝瀬 明子
- 勝見 千明・春日井正典・狩野 修
- 鹿島田忠史・軽部 昌子・桂川 修一
- 金親 正敏・金子 明寛・金子 晴生
- 金子 康子・関東 繁・鎌田 直子
- 梶山 祥子・河合 典子・加藤 茂
- 加藤 陸美・加藤 葉子・加藤奈津子
- 加藤香代子・上岡 謙夫・金森 勝士
- 菅野 訓子・木村 裕・菊池 信彦
- 菊池麻由美・菊池 武久・菊池 洋子
- 菊地 由美・菊地 京子・鬼頭 秀明
- 貴島 佳世・岸 洋之・倉根 理一
- 黒木 貴夫・黒瀬 嘉幸・桑原 千草
- 熊谷 良子・窪田 悠介・久保木理恵子
- 久保田伸枝・久保 博・久保 初美
- 久具 宏司・月花 亮・小蒔 達郎
- 小林 寅喆・小林登喜子・小林純二郎
- 小林 静江・小峰八ツヨ・小竹原良雄
- 小竹原安見・小丹 恵子・小泉 啓子
- 小泉 美子・小西 冬海・小西 正子
- 幸田 文一・向山 徳子・向山 秀樹
- 後藤佐多良・後藤 薫・後藤加寿美
- 近藤 弘子・越野恵美子・齊藤 長則
- 齋藤 登・齊藤 伸行・齊藤 康子
- 眞田 壽彦・澤井 寛人・澤渡 美保
- 先山 隆司・西條 公勝・酒井 謙
- 酒井 一夫・酒井 珠子・鮫島 寛次
- 鮫島 桃子・坂本真理子・佐藤 洋子
- 佐藤 中・佐藤 泰弘・佐藤 宣
- 佐藤 清子・佐藤 信秀・佐藤 信一
- 佐藤 俊郎・佐藤 重雄・佐藤 恭子
- 佐藤 艶子・佐藤 宣・佐渡 昌子
- 佐多 由紀・佐々木裕美・佐々木徹郎
- 佐々木康人・白井 久己・忍足美代子
- 嶋田 寛子・島野 光・島田 敏雄
- 島田 長人・清水 友理・新谷 義克
- 新海 雅貴・渋谷 昌良・柴田仁太郎
- 柴田 勝・柴 迪子・柴 忠明
- 柴 昌徳・柴 孝也・篠 繁市
- 篠 昌治・獅山富美子・志鳥眞理子
- 志越 和子・四宮 雅子・塩野多佳子
- 塩野 則次・塩野 久子・清水 工経
- 鈴木 雍人・鈴木智恵子・鈴木 信介
- 鈴木 秀明・鈴木力ツ子・炭山 嘉伸
- 炭山 朋子・杉林 勤・杉本 元信

杉本 寛子・杉原智恵子・須田百合子
 須貝 研司・砂入 美穂・千 哲三
 清宮 祥子・正田 穂積・正田 嘉子
 芹澤 滋幹・袖山巳恵子・高野 恭子
 高木 芳夫・高木 啓吾・高橋 正
 高橋比路美・高橋 和俊・高松 研
 高村 安子・高月 誠・高木 真一
 武田 朋子・武田 吉正・武田 毅
 武村 保栄・武居 正郎・田部 秀山
 田畑 友美・田島 政晴・田村 和子
 田村 清美・田村 恵子・竹内 浪江
 竹中 祐希・竹中 正至・竹川 恵
 谷藤 龍正・谷口 利江・多胡 博雄
 館野 昭彦・館野 香織・館田 一博
 長 博雪・堤 俊一郎・辻本公美子
 辻 明良・塚原 英基・塚原 洋子
 津久田康成・月本 一郎・月本 伸子
 継 行男・天明 佳臣・出口 久次
 東條 賢一・所 常明・戸谷 夏子
 朽久保哲男・並木 温・長澤 貞継
 長尾 二郎・長田 囃雄・長船 宏隆
 長山 徹・長坂 邦子・長岡 貞雄
 中澤 一治・中里 良・中里恵美子
 中野 玲子・中野 敏江・中野 重徳
 中野 紀子・中本 英子・中島 末美
 中島 桂子・中谷 尚登・中村 豊
 中村俊一郎・中村志津子・中村美智子
 中村 友美・中村みゆき・中川 和彦
 中川 俊郎・中川 恵子・中岡 義明
 中園奈津子・中園 宏紀・永澤 康滋
 永山 隆一・二宮 文乃・西田 隆寛
 西村 千秋・西宮 常代・西井 華子
 根本 暁・野田 文子・野村 直子

野上和加博・濱中知恵子・林 鴻程
 林 佳子・発地 美介・畠山 政信
 長谷川和寿・長谷川友紀・早川 浩市
 早原 千鶴・原田 孝・原田千鶴子
 原田裕美子・原山 国秀・原 俊介
 原 むつ代・橋口 玲子・橋詰 直孝
 服部 久男・疋田 照子・平野 盛久
 平野敬八郎・平野 陽子・平田 徹
 平山玖美子・土方 淳・弘中 史
 久田 和子・福島富士子・福田 禮子
 布施 正博・藤田 啓子・藤川万規子
 古川 勝雄・戸田 幹人・本間 照子
 堀之内八千代・星野 光雄・星野 恭子
 星田 宏・星出 陽子・星 恵子
 馬嶋 順子・牧野 紘美・増田 和人
 前澤 浩美・松本 誓子・松本 修三
 松島 英乃・松田 正子・松山 潤一
 松原 龍弘・松原 美保・松浦 聰照
 丸山 和子・美島 利通・水落 笙子
 水野 惇子・水野 孝子・水谷 礼子
 水吉 秀男・三澤 義久・三木 延義
 三木 一正・三登 和代・三宅 三
 三浦 淳生・宮崎 元伸・宮島 良征
 村國 均・村川 公一・村川世津子
 村井 貞子・村井 昌允・望月 陽子
 望月 祐一・百瀬せつ子・森木 光司
 森 克彦・森 紘子・守屋 栄
 柳川 悦子・柳 恵子・矢野 仁子
 矢野ともね・谷野 徹・山崎 大治
 山澤 一郎・山門 誠・山本 温子
 山田 智政・山田美智子・山田耕一郎
 山田 輝代・山崎 純一・山村 憲
 山川ふみ子・山口 美穂・山下 美玉

山下 香澄・山下 育子・柳瀬 達夫
 湯澤 俊・湯浅 玲奈・湯浅 貴文
 吉田 宏重・吉田 計夫・吉田 友英
 吉永 克己・吉川 芳登・横田 卓史
 横山 祐作・龍 倫之助・鷺澤 祐子
 鷺澤 尚宏・和田 俊洋・和田しづ江
 渡邊 弘恵・若松 茂樹・若江幸三良
 若江恵利子
 (有)石沢工業所・(株)エクスセル・サービス
 医療法人社団 永生会 永生病院
 栄養教諭期成会 田中信
 学校法人 桜蔭学園文化祭企画委員会
 (株)銀座トマト・(有)クリーンワーク
 (株)幸和義肢研究所・(株)コンテス
 (有)清水商会・鈴木内科眼科医医院
 (株)立川印刷所
 一般財団法人 竹田健康財団理事長 竹田秀
 立川酸素(株)
 東邦大学薬学部鶴風会
 東京医療クリーン事業協同組合
 (株)東新商会
 一般社団法人 東京都信用組合協会
 中村建設(株)
 野口整形外科 野口隆敏
 八王子建物管理(株)
 馬場クリニック・(株)フジミ
 医療法人社団 武美会 富士診療所
 公益財団法人 星総合病院
 (株)増田禎司商店
 (有)森永牛乳 小平販売所
 (有)吉沢薬品 吉沢隆
 医療法人社団 嘉明会 横浜東邦病院
 東京小児みどり父母会

社会福祉法人鶴風会へ

「ご寄贈品」芳名

令和2年7月〜令和3年2月
 25名(五十音順・敬称略)

マスク

ウイズ(株)・岡宮 育世
 関東 繁・木下三和子
 戸田 淑子・立川酸素(株)
 (株)東新商会 山下亨
 三菱ビルテクノサービス
 吉野由紀子

手指消毒液

石川 至・関東 繁
 吉野由紀子・(株)遠藤商会
 (有)才オタ商会・匿名
 海老根伊佐子・大関 忍
 藤川万規子・ウイズ(株)

防護用品

矢ノ口英里
 (株)一如社
 浅田 栄
 コストコホールセール(株)
 入間倉庫店

おむつ

浅田 栄
 コストコホールセール(株)
 入間倉庫店

りんご
 空気清浄機

大鰐町農業青年会
 一般社団法人 東京馬主協会



コストコホールセール(株)入間倉庫店